

令和4年度 外部人材活用・地域人材育成事業（ワークショップの開催イメージ）



課題特定とビジョン設定



具体的な取組の検討



アクションプラン作成

WS
①



WS
②



WS
③



WS
⑥



WS
⑦



WS
⑧

アドバイザーと課題を深掘り

- ✓ 後継者不足による廃業、空き店舗増
- ✓ 来訪者減と消費活動の停滞
- ✓ 若手事業者や次世代リーダーが不在
- ✓ 多世代で話し合える機会がない
- ✓ 商店街への新規加入者が減少
- ✓ 新規出店が進まない

※アドバイザーとともに現場視察等を行い、課題を再整理

目指したい姿（ビジョン）を設定

- ◆ 人が自然と集まる生き活きとしたまち
- ◆ サブカルや学びをコンセプトとした商店街
- ◆ 新規創業が絶えない商店街
- ◆ 古民家等を有効活用した地域活性化
- ◆ 新しいことに継続的に取組む商店街 など

事業化に向けた準備

- ✓ 若い世代を参画したプロジェクト体制の構築
- ✓ 地域・商圈のニーズ把握
- ✓ 空き店舗・空き店舗予備軍の調査
- ✓ SNS等の情報発信の運用整備
- ✓ 収益事業の掘り下げ・見直し
- ✓ デジタル活用に向けたIT事業者との調整

多様な関係者を巻き込んだ連携体制を構築



実施体制・スケジュールの決定

- 中心組織：●●商店街振興組合
- 中心人物：▲▲、■ ■
- 連携組織：商工会、金融機関、大学、まちづくり会社、民間事業者
- サポーター：市役所、観光協会

【スケジュール（案）】

- ①ファーストアクション（1年以内）
- ②短期（1～2年後のあるべき姿）
- ③中期（3～5年後のあるべき姿）

WS後 → 取組開始

地域の魅力・価値向上
ヒト・モノ・カネの集まる持続可能な地域へ



= 各回2名以上の専門人材を派遣（課題の深掘り・役割分担・スケジュール設定・資金調達の方法などをアドバイス）